

## 922. イデアル論 / 基本定理 = 就イテ / 注意

東大代數談話會

單位元ヲ持ツ Integritätsbereich  $\Omega$  フ、任意 Ideal  $a$  (  $\Omega$  及 $\Omega$ -ideal ハ除ク) が Primideal、積トシテ eindeutig = 表ハナレルタメノ十分條件トシテ、次、三ツノ條件がヨク知ラレテキル。

(1)  $\Omega$ , Ideal = 就イテ Teilerkettensatz が成立ツ。

(2) Primideal  $\wedge$  maximal フアル。

(3)  $\Omega$  ハ  $\vee$  Quotientenkörper  $\neq$  ganz abgeschlossen フアル。

之時ハ次、(4) が又成リ立ツ。

$$(4) \quad a = p_1^{e_1} \cdots p_n^{e_n}, \quad b = p_1^{f_1} \cdots p_n^{f_n} \quad (e_i, f_i \geq 0)$$

トスルトキ、 $a \supset b + \text{ルタメ}$ 、必要十分條件  $\wedge e_i \leq f_i$   
 $(i=1, \dots, n)$  フルコトフアル。

逆 = van der Waerden, Moderne Algebra  
 II デ注意、Ideal が Primideal / 積トシテ一義 = 表ハ

サレ、且シ (4) が成立ツナラバ (1), (2), (3) の條件が必要ナルコトヲ 証明シテキル。

然シ (4) の條件ナシニ (1), (2), (3) が必要ナルコトヲ 最近久保氏が証明サレ (*Über die Haetherschen fünf Axiome in kommutativen Ringen*, 廣島文理大紀要十卷), 更ニ今春、數物年會ノ小林氏が簡単ナ証明ヲ與ヘラレタ。

(但シ遙カニ一般、場合が取扱ハレテキル。)

更ニ素イデヤルヘノ分解ノ一義性ヲ假定シテモ (*allgemeine Z. P. I. - Integritätsbereich*) (1), (2), (3) が必要ナルコトハ、森氏、論文 (*Allgemeine Z. P. I. - Ringe*, 廣島文理大紀要十卷) ノ異ツタ形アミット一般、場合カラ 証明サレテキル。

此迄又ハ小林氏、方法ノ紹介停々、コノ簡単ナ証明ヲ與ヘラ見ヨウ。

定理  $\exists \theta \wedge \theta \text{ ナ单位元}$  ノアル整域トスル。 $\theta$ 、任意、  
イデヤル  $u$  ( $\neq \theta, u$ ) が素イデヤルノ積トシテ表ハサレ  
ルタメニハ、(表ハシオノ一義性ヲ假定シテモ), (1),  
(2), (3) の條件ハ必要ナル。】

(証明)

(i) 先づ小林氏ノ方法ヲ一部紹介スル。 $\theta$  任意、素イ  
デヤルトシ、 $a \neq \theta$  トスル。

$$(5) (\not p, a)^2 = (\not p, a^2)$$

ヲ証明スル。 $(\not p, a) = \not p, \dots, \not p_m, (\not p, a^2) = \not p'_1, \dots, \not p'_m$  ト

スレバ、 $\mathcal{P} \subset (\mathcal{P}, \alpha)$  カテ  $\beta_1, \dots, \beta_m$  ハスベテカヲ含ム。  
 $\beta'_1, \dots, \beta'_m$  も同様。

$$(\mathcal{P}, \alpha)^2 = \beta_1^2 \cdots \beta_m^2, \quad (\mathcal{P}, \alpha^2) = \beta'_1 \cdots \beta'_m$$

デ共通子部分  $\hookrightarrow$  マトメテ

$$(\mathcal{P}, \alpha)^2 = \mathcal{E} \cdot \alpha, \quad \alpha = \alpha_1, \dots, \alpha_r$$

$$(\mathcal{P}, \alpha^2) = \mathcal{E} \cdot b, \quad b = \alpha'_1, \dots, \alpha'_s$$

$$\alpha_i \neq \alpha'_j \quad (i=1, \dots, r; j=1, \dots, s)$$

トスル。オカニ  $\alpha/\mathcal{P}$  へ移レバ、 $\beta_i, \alpha_i, \dots, \beta$  カヲ含ムカ  
 $\Rightarrow \bar{\beta}_i$ ; etc. ハ  $\mathcal{O}/\mathcal{P}$  1素イデマルトナリ、又  $\bar{\mathcal{P}}, \dots, \bar{\beta}_n$   
 $= \bar{\beta}_1, \dots, \bar{\beta}_n$  等成立スル。(コノ =  $\bar{\beta} \pmod{\mathcal{P}}$  クラ  
 スヲトルコトヲ意味スル。)

$$\begin{aligned} \overline{(\mathcal{P}, \alpha)^2} &= (\overline{(\mathcal{P}, \alpha)})^2 = (\bar{\alpha})^2 = (\bar{\alpha}^2) = \bar{\mathcal{E}} \cdot \bar{\alpha} \\ \overline{(\mathcal{P}, \alpha^2)} &= (\bar{\alpha}^2) = \bar{\mathcal{E}} \cdot \bar{b} \end{aligned}$$

カニ  $\bar{\mathcal{E}} \cdot \bar{\alpha} \cdot \bar{b} = (\bar{\alpha}^2) \bar{\alpha} = (\bar{\alpha}^2) \bar{b}$ , 即チ  $\bar{\alpha} = \bar{b}$  トナ  
 ル。

$\alpha_1, \dots, \alpha_r, \alpha'_1, \dots, \alpha'_s$  が全然ナケレバ (5) ハ  
 既ニ成立スルカニ、例ヘバ  $\gamma \geq 1$  トシテ矛盾ニ算カウ。

$\bar{\alpha}_1, \dots, \bar{\alpha}_r$  中  $\min + \gamma$  ツ例ヘバ  $\bar{\alpha}_i$  トスル。

$$\bar{\alpha}_1 \supset \bar{\alpha}_2, \dots, \bar{\alpha}_r = \bar{\alpha}'_1, \dots, \bar{\alpha}'_s$$

カニ  $\bar{\alpha}_i \supset \bar{\alpha}'_j$  トナル。同様ニ  $\bar{\alpha}'_i \supset \bar{\alpha}_j$ 。即  $\bar{\alpha}_i \supset \bar{\alpha}'_j \supset \bar{\alpha}_j$ 。

$\bar{\alpha}_i, \min$  カニ  $j=1$  トナル、 $\bar{\alpha}_i = \bar{\alpha}'_i$  トナル。 $\alpha_i, \alpha'_i \supset \mathcal{P}$   
 カニ、 $\alpha_i = \alpha'_i$  トナル、假定ニ反スル。即チ (5) が成立  
 スル。

次 = (5) カラ

$$(6) \quad p \cdot (p, a) = p$$

↑ 証明スル。先づ  $(p, a^2) = (p, a)^2 = (p^2, ap, a^2)$  カラ  
 $\pi \in p$  ハ

$$\pi = \pi_1 + \xi a^2 \quad (\pi_1 \in (p^2, ap))$$

トナリ、 $\xi a^2 \equiv 0 \pmod{p}$  トナル。 $a \not\equiv 0 \pmod{p}$  カラ  
 $\xi a \equiv 0 \pmod{p}$  トナリ、之レハ  $p \in (p^2, ap) = p(a, p)$  を  
示ス。即ち (6) トナル。

(ii) 之レカラ先キハ 最早簡単デアル。

(1) スベテノ素イデマルヲハ maximal デアル。

何トナレバ オヨピラトリ、 $(\pi) = p_1 \cdots p_n$  ト分解スル。オコ  $(\pi)$  カラ例へバ オコ、トナル。オガ maximal  
デナイトスレバ オコオコ  $(\pi_0 \neq 0, p)$  トナリ、  
オコ  $a$ 、 $p_1 \nmid a$  トナル。(6) よリ

$$p_1(p_1, a) = p_1$$

両辺 =  $p_2 \cdots p_n$  ト掛けレバ、 $(\pi)(p_1, a) = (\pi)$ 、即ち  
 $(p_1, a) = 0$  トナリ。

之レハ  $0 \neq p_0 \in (p_1, a)$  ト矛盾スル。即チハ maximal  
デアル。

(口) 次 =  $p^{-1} \cdot p = 0$  が成立スル。

何トナレバ、 $\pi \in p$  トナリ  $(\pi) = p_1 \cdots p_n$  トスレ  
バ、例へバ オコ  $p_1$  トナルが、(1) カラ  $p = p_1$  トナル。コ  
レ  $\Rightarrow \pi = \frac{1}{p_1} p_2 \cdots p_n$  トスル 分數イデマルヲヘレ  
バ

$$\alpha \subset p^+, \quad \alpha p = 0$$

テアルカ  $\alpha \circ p^{-1} \cdot p \circ \alpha p = \alpha$  ト + ル。即  $p, p^+ = 0$

(v)  $\alpha, 1$  テヤル  $\alpha$ ,  $b$  が夫々  $\alpha = p_1^{e_1} \cdots p_n^{e_n}$ ,  
 $b = p_1^{f_1} \cdots p_n^{f_n}$  ( $e_i, f_i \geq 0$ ) ト表ハサレルトキ =,  
 $\alpha \circ b + レバ \quad e_i \leq f_i$  ( $i=1, \dots, n$ ) トナル。何トナレバ  
 例ヘバ  $e_i > f_i$  トスレバ, 順次  $= p_1^{-1} \circ f_i$  回  $a, b$  ニ乘ズレバ

$$p_1 \circ p_1^{e_1-f_1} p_2^{e_2} \cdots p_n^{e_n} \circ p_2^{f_2} \cdots p_n^{f_n}$$

ト + リ,  $p_i \circ p_i$  ( $i \neq 1$ ) テナケレバナラヌ。コレハ (1) =  
 背面スル。

(=)  $\alpha = p_1 \cdots p_n$  トスル表ハシ方ハ一義 = 定マル。

証明ハ (v) ト同様。

(v), (=) カアルカ, 後ハ Modern Alg. II ニツシケレ  
 ベヨイ。(証明完)

16. 4. 23 (河田)